

# 堀尾忠氏の墓所視察

## 市民団体が顕彰へ勉強会

安来



武上紀江さん（左）の説明を聞くメンバー

松江藩初代藩主・堀尾忠氏を顕彰しようと、安来、松江両市の有志でつくる団体（安部登会長、15人）が9日、安来市内にある忠氏の墓所とされる地を視察した。団体は今後もゆかりの地を視察したり、勉強会を開いたりして知識を深め、顕彰碑建立などを視野に入れながら活動を進める。

団体は、忠氏の歩みや人となりを調べて発信し、市民に広く知ってもらおうと発足した。

忠氏は松江開府の祖・堀尾吉晴の次男で、1604（慶長9）年に死亡したとされ現在の月照寺（松江市外中原町）など、墓所といわれる場所が数カ所ある。

この日は墓所の一つとされる、安来市広瀬町富田の中光寺平にある墓所を視察。メンバーで、10年以上忠氏を研究している安来市赤江町の武上紀江さん（76）を案内役に、現地で説明を受けた。メンバーからは、石垣が木の根に圧迫されて崩れかけている場所があることを懸念する声もあった。

武上さんは「会の発足で、ようやく忠氏にスポットライトが当たった。忠氏の存在が、市民の皆さんにも浸透してほしい」と期待を寄せた。

（河野亜美）

願 時ル